

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大妻女子大学
設置者名	学校法人大妻学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
家政学部	被服学科	夜・通信	13	0	0	13	13	
	食物学科	夜・通信			0	13	13	
	児童学科	夜・通信			0	13	13	
	ライフデザイン学科	夜・通信			0	13	13	
文学部	日本文学科	夜・通信		0	0	13	13	
	英語英文学科	夜・通信			0	13	13	
	コミュニケーション文化学科	夜・通信			0	13	13	
社会情報学部	社会情報学科	夜・通信		0	0	13	13	
人間関係学部	人間関係学科	夜・通信		0	0	13	13	
	人間福祉学科	夜・通信			0	13	13	
比較文化学部	比較文化学科	夜・通信		0	0	13	13	
(備考)他にも該当する教員・授業はありますが、今年度は詳細確認ができていない全学共通科目のみ計上しています。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.otsuma.ac.jp/academics/guide/syllabus>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大妻女子大学
設置者名	学校法人大妻学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/cooperate>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2017.6.1 ～ 2021.5.31	ガバナンス改革
非常勤	株式会社役員	2019.6.1 ～ 2023.5.31	ガバナンス改革
(備考) 学外者である理事を3名以上配置しているが、上記では一部を記載。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大妻女子大学
設置者名	学校法人大妻学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学の授業計画(シラバス)には「単位数」や「授業形態・方法」等の基本事項以外に、「授業の概要、ねらい」「到達目標」「授業内容とスケジュール」「授業時間外の学習(予習・復習等)」「成績評価の方法及び基準」「教科書・参考書」「質問等の受付」を記載項目としている。 記載内容については作成依頼時に各授業担当者へ作成時の留意事項等を配付し、例えば「到達目標」の項目については、「この科目を履修し、学修目的を達成できた結果、学生がどのような知識・能力などを修得できるのか(何ができるようになるのか)、学生が主体となる文章で記載してください。」と学生が理解しやすい具体的な記載内容にするよう指示している。 作成は、例年前年度の11月に大学から授業担当者へ作成依頼し、1月上旬を作成期限としている。その後チェックを経て、学生の新年度履修登録が行われる前の3月下旬にWeb上で公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://unipa.otsuma.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業担当者が授業計画(シラバス)の「成績評価の方法及び基準」に記載した方法・基準より算出した点数を、判定基準(100~90点:S(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、89~80点:A(基本的な目標を十分に達成している)、79~70点:B(基本的な目標を達成している)、69~60点:C(基本的な目標を最低限度達成している)、59点以下:D(不合格、基本的な目標を達成していないので再履修が必要である)、出席回数不足:E(再履修)、試験時欠席等:F)、に照らし合わせ、成績評価・単位認定を行っている。 また、成績評価が適正であるかの確認手段の1つとして、成績評価確認制度を設け、学生が付与された成績について疑義を感じた際に確認申請をすることにより、授業担当教員から成績評価についての説明を受けられる機会を設けている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では成績評価における客観的な指標として GPA 制度を実施しており、その算出方法は学生に配付するとともに Web 上でも公開されている「履修ガイド」に掲載している。具体的な算出方法は以下の通り。</p> <p>$(S \text{ の単位数} \times 4.0 + A \text{ の単位数} \times 3.0 + B \text{ の単位数} \times 2.0 + C \text{ の単位数} \times 1.0)$ 総履修登録単位数 (不合格 D、再履修 E、試験時欠席 F を含む)</p> <p>GPA は教務システムにより自動的に算出され、教務委員等を通じて分布状況等を把握できる仕組みになっている。</p> <p>また成績評価にあたっては、全学的に「大妻女子大学成績評価に関するガイドライン」を定め、適切な実施体制の構築を図っている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.otsuma.ac.jp/pdf/academics/guide/subjectguide/undergraduate-01-2019.pdf (履修ガイド p. 78)
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>全学・学部・学科単位で「卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)」を定め、ホームページ等で公表しており、例えば全学単位では以下のように定めている。</p> <p>「大妻女子大学は、豊かな教養と思いやりの心を持ち合わせた真に自立した女性を育成することをミッションとしています。その実現に向け以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の全体像を理解できる深く幅広い知識と教養を修得し、変化する 21 世紀の社会環境に対して、新たな課題を見だし主体性、創造性を持って問題を解決していく能力 2. 他者との支え合いの中で作られていく個々人の自己決定性 (関係的自立) を身につけ、社会の構成員としての自覚を持って、修得した知識と技術を積極的に活用していく能力 3. 関係的自立の確立過程で培ったコミュニケーション力を駆使し、グローバル化した社会において、自己の未来を切り開いていく能力 4. 講義、演習、卒業論文等の作成を通して学部、学科、専攻の専門的知識・技術を修得し、社会集団において中核的・指導的な役割を果たしていく能力 <p>「卒業の認定に関する方針」に定められた能力等を育成するために必要な教育の方針として「教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)」を定め、それに基づき開講している各授業科目を学生が履修、単位修得することで、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力等を修得できる教育体制を構築している。</p> <p>また、卒業の要件は学科・専攻毎に定められ、学生に配付するとともに Web 上でも公開されている「履修ガイド」に掲載している。卒業要件として定められている修得単位数は、その合計のみならず、専門科目・全学共通科目 (教養系科目) 別、さらには学修分野別に要件を定め、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力修得を適切に行える教育課程を編成している。</p> <p>卒業判定は、学科・専攻毎に定められた卒業要件に基づき、教務委員会、教授会で慎重に審議し、適切に判定される体制を整えている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.otsuma.ac.jp/about/intro/diploma

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大妻女子大学
設置者名	学校法人大妻学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.otsuma.jp/information/financial
収支計算書又は損益計算書	http://www.otsuma.jp/information/financial
財産目録	http://www.otsuma.jp/information/financial
事業報告書	http://www.otsuma.jp/information/financial
監事による監査報告(書)	http://www.otsuma.jp/information/financial

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書 対象年度: 2019)
公表方法: http://www.otsuma.jp/information/financial
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/result2014

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/result2014

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 家政学部
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/home) (概要) 新しい時代に求められる学びをリードする「未来志向型サイエンス」を主軸に教育を行い、自立心あふれる職業人を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/home) (概要) 家政学部は、家庭という社会における最小単位から、科学的で豊かな生活を実践するために必要な問題意識を育み、社会の複雑な構造や問題を把握し、解決へと導くことのできる、真に自立した社会人を育成することを目指しています。 以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士の学位を授与します。 1. 知識・理解 各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題を理解し、幅広い知識を身につけている。 2. 思考・判断 各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題について自ら考え、適切な対処法を判断できる。 3. 関心・意欲・態度 各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）に関する諸問題について常に関心を持ち、対処しようとする姿勢を有している。 4. 技能・表現 各学科の専門領域（被服、食物、医療、児童、家庭生活等）で活躍できる技能を有し、研究、指導、問題解決（具現化）ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/home) (概要) 私たちは、たくさんのモノに囲まれ、物質的にも豊かな生活を送っています。しかし、その一方で、生活習慣病や環境破壊が深刻化したり、家族や親子をはじめとした人間関係のあり方が大きく変わっていくなど、次々と新しい問題も生まれています。 これからの家政学は、一人の生活者としての視点からこうした問題に取り組み、それを科学的に研究することで、その解決方法を生み出していく学問になることが要求されています。 家政学部では、新しい時代に求められる学びをリードする『未来志向型サイエンス』を主軸に教育を行い、自立心あふれる職業人の育成を教育の方針としています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/home)

(概要)

家政学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。

1. 知識・理解

大学での学問の出発点をなす、しっかりした基礎学力を持っている。

2. 思考・判断

生涯を通じて、個人と家庭の生活、社会の改善を考えていきたいと思っている。

3. 関心・意欲・態度

人間の生活のあり方とその改善に強い関心を抱き、そのために主体的に学ぼうとする姿勢を有している。

4. 技能・表現

他の人々との協力、協働、社会的連帯ができる。

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/lit)
(概要) 「ことば」による広い意味でのコミュニケーションを教育のテーマとし、実技と知識・感覚の錬磨を学修と教育の両輪とすることにより、時代の進展に柔軟に適応できる有為な人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/lit)
(概要) 文学部では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 人間と言葉に関する深く広い知識を有する。 2. 思考・判断 人間と言葉に関する事象を客観的に観察し、正確に分析することができる。 3. 関心・意欲・態度 多様な価値観に関心を持ち、異なる価値観を尊重することができる。 4. 技能・表現 人間と言葉の関係を認識し、的確な意思伝達を行うことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/lit)
(概要) 文学部のカリキュラムは、言語運用能力の達成と人間性の錬磨を共通課題として編成されています。文学部を構成する3つの学科は、学問の体系性を反映し、個々の学生の関心に対応するため、固有のカリキュラムを設置しています。それぞれの学科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、独自の方針(カリキュラム・ポリシー)を設定しています。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/lit)
(概要) 文学部では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 人間と言葉についての基礎的な知識を有している。 2. 思考・判断 人間と言葉に関する事象を冷静に考え、自らの判断を下すことができる。 3. 関心・意欲・態度 人間と言葉に関する未知の事象に対する好奇心を持っている。 4. 技能・表現 自分の知識や意見を表現し、情報を伝達することができる。

学部等名 社会情報学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/sis)</p>
<p>(概要) 現代社会が要求する情報リテラシーを修得し、高度に発達したIT社会で活躍することのできる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/sis)</p>
<p>(概要) 社会情報学部は高度情報化社会において真に自立した、社会に貢献できる女性を育成することを目標としています。以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 21世紀の高度情報化社会において社会生活をおくる上での必要な能力すなわち、情報を整理・活用し、問題を解決する能力。 自立した個人として、生活、環境、情報の各課題に対し、的確な意思決定をする能力。 語学教育などで培った国際的なコミュニケーション力をベースに、グローバル化した社会において、自己の未来を切り開いていく能力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/sis)</p>
<p>(概要) 社会情報学部における教育の主眼は、①情報の整理・活用力と問題解決力、②生活・環境・情報の各課題に対する的確な意思決定能力、③自己実現に不可欠な他者とのコミュニケーション能力の養成にあります。</p> <p>卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本実技としての情報処理実習と、国際的コミュニケーション能力を育成する目的での英語を中心とした語学教育を3専攻共通の基礎的な科目として位置付けます。 1年次に開講される少人数教育である基礎演習を出発点として、専攻ごとに社会科学、人文科学から自然科学まで幅広い専門科目を総合的に学びます。 3年次から必修の少人数ゼミナールと卒業研究を通じて、情報の整理・活用力と問題解決力を実践的に育成します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/sis)</p>
<p>(概要) 社会情報学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 大学での修学に必要な、基礎的な学力を有している人。 社会、環境、情報を理解するための知識を得たい人。 思考・判断 基礎的な学力をベースに、主体的かつ創造的に社会、環境、情報の各課題を論理的に分析し解決することのできる人。 関心・意欲・態度 <ol style="list-style-type: none"> 社会、環境、情報に興味・関心があり、自ら進んで意欲的に学びたい人。 本学部で培ったことを元に、卒業後、社会に積極的に貢献したい人。 技能・表現 自らの考えを他者に伝える技能と表現力を持つ人。

<p>学部等名 人間関係学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/hum)</p>
<p>(概要) 「共生社会」の実現を目指して、さまざまな人々や社会と共存するための知識を学び、人間関係や社会についての洞察力を身につけ、人間の幸福や福祉についての深い理解を修得し、柔軟な想像力・すぐれた問題解決能力・実践力を備えた心豊かな人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/hum)</p>
<p>(概要) 人間関係学部では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 深く幅広い知識と教養を修得し、自らを高める努力をする習慣と、様々な問題を解決する能力を身につけていること。 2. 関係の自立を目指しながら、家庭、職場、地域社会、国際社会等において、人々と幸福に共生する資質を身につけていること。人々と共生するための幅広い知識と教養、多様性を受け入れる価値観、コミュニケーション能力を身につけていること。 3. グローバル化に対応できる基礎的な語学力、積極的なコミュニケーション能力、国際感覚を身につけていること。 4. ジェネラリストとして、各々の時代が抱える様々な問題を当事者の立場にたって様々な方法で解決する能力を持っていること。また、スペシャリストとして、社会学、社会・臨床心理学、社会福祉学等の学問を基盤にした専門的な知識と技術を身につけていること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/hum)</p>
<p>(概要) 現代社会は、複雑化し、めまぐるしく変化しています。家庭や職場や地域のあり方、人と人との関係、生活を送る上でさまざまな課題がある人々への支援のあり方など、人間関係に関わる多種多様な問題が山積しています。人間関係学部では、このような問題を改善し、人々が互いの違いを尊重し合い助け合う「共生社会」の実現を目指して、人間関係や社会についての洞察力を身につけ、人々の幸福や福祉についての理解を深め、柔軟な想像力・すぐれた問題解決能力・実践力を備えた心豊かな人材の育成を目標とし、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校訓「恥を知れ」を座右の銘とし、自己反省を重ね、常に自己の向上を目指すことができるよう、全教育課程において配慮します。 2. 深く幅広い知識と教養を修得するため、教養科目等の全学共通科目を設置します。また、人間関係を築き、改善し、研究するため、「人間関係」に関する学部共通科目を設置します。 3. ジェネラリストとしての知識を身につけるため、専門領域の周辺にある学問を基盤にした科目を設置します。また、スペシャリストとしての知識と技術を身につけるため、社会学、社会・臨床心理学、社会福祉学の学問を基盤にした専門科目を設置します。 4. 主体的、創造的な問題解決能力の育成及び関係の自立促進のために、少人数及び個別で、双方向性の指導を行います。 5. コミュニケーション能力を向上させるため、日本語、外国語の科目を設置すると共に、言語や非言語を用いて双方向的にコミュニケーションの体験ができるよう、少人数による科目を設置します。特に英語は、実践的なコミュニケーション能力の獲得を重視し、

外国人講師による少人数、参加型の教育を行います。また、より深くそれぞれの学問を学ぶために、言語、文化、地理、歴史、自然科学、情報処理等に関する科目を設置します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/hum>)

(概要)

人間関係学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。

1. 知識・理解

人間関係学部の教育に耐える基礎学力を持っていること。

2. 思考・判断

自らの人生に積極的で、知識や技術の修得に努力を惜しまない人。

3. 関心・意欲・態度

(1) 社会学、社会・臨床心理学、社会福祉学を学ぶ意欲を持っていること。

(2) 人々の幸せやより良い社会の実現に寄与する意欲を持っていること。

4. 技能・表現

コミュニケーション力を磨き、グローバルな視点に立ち、他者と協力する姿勢を持ちたいと望んでいること。

学部等名 比較文化学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/ccs-culture)</p>
<p>(概要) 2カ国語を修得し、各地域毎の文学、美術、宗教、政治、歴史などを日本文化と比較研究することにより、急激に変化する国際社会にも柔軟に対応できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/ccs-culture)</p>
<p>(概要) 比較文化学部では、「多様な文化の中の自立する私（関係的自立）」を育成します。その実現に向け、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。 2. 多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。 3. 多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。 4. 特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/ccs-culture)</p>
<p>(概要) 比較文化学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界各地域の文化を研究するために、英語を必修として、フランス語、ドイツ語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語のうちいずれかの言語を履修するとともに、 2. 日本文化を含む世界の文学・美術・宗教・歴史・文化などを、講義とゼミで比較研究します。 3. こうすることにより、急激に変化する国際社会に柔軟に対応できる人材の養成を行います。 4. 比較文化学部の4年間の教育課程は、入門（1年）から文化論（2年）、演習（3年）、卒論（4年）へと展開していく積み上げ式で設計されています。それぞれの節目で教員との懇談により、自分で進路を決断して行きます。 したがって、比較文化学部は文化の勉強を促すにとどまらず、文化の勉強によって学生の自立を意識的に促すのです。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.otsuma.ac.jp/academics/university/ccs-culture)</p>
<p>(概要) 比較文化学部では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 外国語と外国の歴史・文化の知識と理解。（具体的には「国語」「英語」を基本に、外国文化と日本文化を比較するための基礎となる「世界史」「日本史」） 2. 思考・判断 物事を自分で考え、自分の言葉で語る姿勢。 3. 関心・意欲・態度 意欲的に、多様な人々と協働して学ぶ態度。 4. 技能・表現 基本的な語学力と論の構成員力。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/education>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
家政学部		37人	13人	13人	2人	24人	89人
文学部		23人	10人	6人	0人	0人	39人
社会情報学部		24人	9人	5人	0人	0人	38人
人間関係学部		19人	9人	2人	4人	2人	36人
比較文化学部		12人	9人	0人	0人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		523人					524人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/teacher_search/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
各学部におけるFD活動に加え、副学長を委員長とした全学的なファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し、授業アンケートやFD研修会の実施等を通して、本学の教育内容及び方法の検討、組織的な研修及び改善を推進している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
家政学部	490人	523人	106.7%	1,904人	2,033人	106.8%	19人	10人
文学部	360人	385人	106.9%	1,431人	1,506人	105.2%	21人	19人
社会情報学部	300人	309人	103.0%	1,245人	1,398人	112.3%	15人	6人
人間関係学部	250人	283人	113.2%	1,060人	1,143人	107.8%	30人	0人
比較文化学部	165人	180人	109.1%	665人	738人	111.0%	5人	1人
合計	1,565人	1,680人	107.3%	6,305人	6,818人	108.1%	90人	36人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
家政学部	486人 (100%)	5人 (1.0%)	437人 (89.9%)	44人 (9.1%)
文学部	369人 (100%)	3人 (0.8%)	329人 (89.2%)	37人 (10.0%)
社会情報学部	295人 (100%)	1人 (0.3%)	268人 (90.9%)	26人 (8.8%)
人間関係学部	287人 (100%)	13人 (4.5%)	254人 (88.5%)	20人 (7.0%)
比較文化学部	167人 (100%)	0人 (0.0%)	147人 (88.0%)	20人 (12.0%)
合計	1,604人 (100%)	22人 (1.4%)	1,435人 (89.5%)	147人 (9.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：大妻女子大学大学院				
主な就職先：日本郵便株式会社、東京都教育委員会、日本生命保険相互会社、住友不動産販売株式会社、株式会社LEOC				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
家政学部	491人 (100%)	459人 (93.5%)	17人 (3.5%)	15人 (3.0%)	0人 (0.0%)
文学部	376人 (100%)	334人 (88.8%)	22人 (5.9%)	20人 (5.3%)	0人 (0.0%)
社会情報学部	304人 (100%)	277人 (91.1%)	9人 (3.0%)	18人 (5.9%)	0人 (0.0%)
人間関係学部	278人 (100%)	260人 (93.5%)	8人 (2.9%)	10人 (3.6%)	0人 (0.0%)
比較文化学部	181人 (100%)	156人 (86.2%)	11人 (6.1%)	14人 (7.7%)	0人 (0.0%)
合計	1,630人 (100%)	1,486人 (91.2%)	67人 (4.1%)	77人 (4.7%)	0人 (0.0%)
(備考)					
※修業年限期間内に人間関係学部から文学部へ転部・転科し、卒業した学生が1名おりますが、文学部学生数としてカウントしています。					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
本学の授業計画(シラバス)には「単位数」や「授業形態・方法」等の基本事項以外に、「授業の概要、ねらい」「到達目標」「授業内容とスケジュール」「授業時間外の学習(予習・復習等)」「成績評価の方法及び基準」「教科書・参考書」「質問等の受付」を記載項目としている。
記載内容については作成依頼時に各授業担当者へ作成時の留意事項等を配付し、例えば「到達目標」の項目については、「この科目を履修し、学修目的を達成できた結果、学生

がどのような知識・能力などを修得できるのか（何ができるようになるのか）、学生が主体となる文章で記載してください。」と学生が理解しやすい具体的な記載にするよう指示している。

作成は、例年前年度の 11 月に大学から授業担当者へ作成依頼し、1 月上旬を作成期限としている。その後チェックを経て、学生の新年度履修登録が行われる前の 3 月下旬に Web 上で公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

全学・学部・学科単位で「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」を定め、ホームページ等で公表しており、例えば全学単位では以下のように定めている。

「大妻女子大学は、豊かな教養と思いやりの心を持ち合わせた真に自立した女性を育成することをミッションとしています。その実現に向け以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 社会の全体像を理解できる深く幅広い知識と教養を修得し、変化する 21 世紀の社会環境に対して、新たな課題を見だし主体性、創造性を持って問題を解決していく能力
2. 他者との支え合いの中で作られていく個々の自己決定性（関係的自立）を身につけ、社会の構成員としての自覚を持って、修得した知識と技術を積極的に活用していく能力
3. 関係的自立の確立過程で培ったコミュニケーション力を駆使し、グローバル化した社会において、自己の未来を切り開いていく能力
4. 講義、演習、卒業論文等の作成を通して学部、学科、専攻の専門的知識・技術を修得し、社会集団において中核的・指導的な役割を果たしていく能力

「卒業の認定に関する方針」に定められた能力等を育成するために必要な教育の方針として「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」を定め、それに基づき開講している各授業科目を学生が履修、単位修得することで、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力等を修得できる教育体制を構築している。

また、卒業の要件は学科・専攻毎に定められ、学生に配付するとともに Web 上でも公開されている「履修ガイド」に掲載している。卒業要件として定められている修得単位数は、その合計のみならず、専門科目・全学共通科目（教養系科目）別、さらには学修分野別に要件を定め、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力修得を適切に行える教育課程を編成している。

卒業判定は、学科・専攻毎に定められた卒業要件に基づき、教務委員会、教授会で慎重に審議し、適切に判定される体制を整えている。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
家政学部	被服学科	124 単位	有・無	45 単位 (1 年次)
	食物学科	食物学専攻 124 単位 管理栄養士専攻 139 単位	有・無	54 単位 (食物学専攻 1 年次)
	児童学科	児童学専攻 142 単位 児童教育専攻 158 単位	有・無	56 単位 (児童学専攻 1 年次)
	ライフデザイン 学科	124 単位	有・無	40 単位 (1 年次)
文学部	日本文学科	125 単位	有・無	39 単位 (1 年次)
	英語英文学科	125 単位	有・無	43 単位 (1 年次)
	コミュニケーション文化学科	127 単位	有・無	40 単位 (1 年次)
社会情報学部	社会情報学科	124 単位	有・無	44 単位 (社会生活情報学 専攻 1 年次)
人間関係学部	人間関係学科	126 単位	有・無	44 単位 (社会学専攻 1 年次)
	人間福祉学科	126 単位	有・無	44 単位
比較文化学部	比較文化学科	126 単位	有・無	45 単位 (1 年次)

G P Aの活用状況（任意記載事項）	G P Aが優良な学生に対する規定の履修登録上限単位数基準の緩和、成績不振の学生に対しての指導の基準として活用している。 公表方法： http://www.otsuma.ac.jp/pdf/academics/guide/subjectguide/undergraduate-01-2019.pdf （履修ガイド p.79）
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	在学生の週あたりの予習・復習時間をHPにて公表している。 公表方法： http://www.otsuma.ac.jp/academics/guide/studytime

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/about/facilities/chiyodacampus>（千代田キャンパス）
<http://www.otsuma.ac.jp/access/chiyoda>（千代田キャンパス）
<http://www.otsuma.ac.jp/about/facilities/tamacampus>（多摩キャンパス）
<http://www.otsuma.ac.jp/access/tama>（多摩キャンパス）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料	入学金	その他	備考
			(年間)			
家政学部	被服学科	1	775,000円	250,000円	422,500円	教育充実費・保健費
		2	785,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
		3	795,000円	-	442,500円	教育充実費・保健費
		4	785,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
	食物学科食物学専攻	1	775,000円	250,000円	438,000円	教育充実費・保健費・専攻費
		2	785,000円	-	448,000円	教育充実費・保健費・専攻費
		3	795,000円	-	458,000円	教育充実費・保健費・専攻費
		4	785,000円	-	448,000円	教育充実費・保健費・専攻費
	食物学科 管理栄養士専攻	1	775,000円	250,000円	450,500円	教育充実費・保健費・専攻費
		2	785,000円	-	460,500円	教育充実費・保健費・専攻費
		3	795,000円	-	470,500円	教育充実費・保健費・専攻費
		4	785,000円	-	460,500円	教育充実費・保健費・専攻費
	児童学科 ライティング学科	1	765,000円	250,000円	412,500円	教育充実費・保健費
		2	775,000円	-	422,500円	教育充実費・保健費
		3	785,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
		4	785,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
文学部	日本文学科 英語英文学科*1 コミュニケーション文化学科	1	745,000円	250,000円	412,500円	教育充実費・保健費
		2	755,000円	-	422,500円	教育充実費・保健費
		3	765,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
		4	765,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
社会情報学部	社会情報学科	1	755,000円	250,000円	422,500円	教育充実費・保健費
		2	765,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
		3	775,000円	-	442,500円	教育充実費・保健費
		4	765,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
人間関係学部	人間関係学科	1	745,000円	250,000円	412,500円	教育充実費・保健費
		2	755,000円	-	422,500円	教育充実費・保健費

		3	765,000 円	-	432,500 円	教育充実費・保健費
		4	765,000 円	-	432,500 円	教育充実費・保健費
	人間福祉学科 ^{※2}	1	745,000 円	250,000 円	412,500 円	教育充実費・保健費
		2	755,000 円	-	422,500 円	教育充実費・保健費
	人間福祉学科 人間福祉学専攻	3	765,000 円	-	432,500 円	教育充実費・保健費
		4	765,000 円	-	432,500 円	教育充実費・保健費
	人間福祉学科 介護福祉学専攻	3	765,000 円	-	484,500 円	教育充実費・保健費・専攻費
		4	765,000 円	-	484,500 円	教育充実費・保健費・専攻費
比較文化 学部	比較文化学科	1	745,000 円	250,000 円	412,500 円	教育充実費・保健費
		2	755,000 円	-	422,500 円	教育充実費・保健費
		3	765,000 円	-	432,500 円	教育充実費・保健費
		4	765,000 円	-	432,500 円	教育充実費・保健費

(2019 年度実績)

※1 2019 年度入学生から英文学科を英語英文学科に学科名変更

※2 2018 年度入学生から専攻を統合

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、経済面での不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるよう、「大妻女子大学育英奨学金」・「学校法人大妻学院特別育英奨学金」等、独自の奨学金制度を設けています。また、不慮の災害に見舞われた学生に対し、学生納付金の減免制度を設けています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職支援センターでは、進路に関するキャリア相談や就職活動に関するアドバイス、インターンシップや求人情報などの紹介を行っています。大学1・2年次から「就職力育成講座」、大学3年次からは「就職基礎講座」など、内定までのサポートをきめ細かく行っています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

各キャンパスに健康センターと学生相談センターを設置しています。健康センターは、学生の健康保持・増進および病気の早期発見に努めています。学生相談センターは、相談室と談話室で構成され、専門のカウンセラーが学生の相談に応じており、充実した学生生活と人間的な成長促進を援助しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/education>